



# 十一月 (小)

しもつき

## 霜月 女宿

(十一月八日立冬の節より)  
月命乙亥二黒土星の月  
暗剣殺西南方

旧十一月大  
十一月小

日	曜日	干支	九星	行事	行	事	旧暦	六輝	中段	共宿	下段	目出入	月出入	満潮	干潮
1日	金	みづのえとら	四緑	灯台記念日、教育文化週間、新米穀年度、計量記念日 旧十月大	五	友引	さだん	牛	●			6.02	16.47	20.08	13.17
2日	土	みづのと	三碧	唐津くんち、京都松尾大社上卯大祭	六	先負	とる	女				6.03	16.46	21.01	13.17
3日	日	きのえとら	二黒	文化の日、明治神宮例祭、東京足立皿沼不動万灯祭	七	佛滅	やぶる	虚				6.04	16.45	21.57	14.41
4日	月	きのと	一白	振替休日、消費セクター開設記念日	八	大安	あやぶ	危				6.05	16.44	22.54	14.41
5日	火	ひのえとら	九紫	世界津波の日、三隣亡、一粒万倍日	九	赤口	なる	室				6.06	16.43	23.50	14.41
6日	水	ひのと	八白	鳥根出雲大社神迎祭、とおかんや	十	先勝	おさん	壁				6.07	16.42	24.47	14.41
7日	木	つちのえとら	七赤	天しゃ	十一	友引	ひらく	奎				6.08	16.41	25.44	14.41
8日	金	つちのと	六白	立冬二時二分、一の酉、ふいご祭、世界都市計画の日、京都伏見稲荷火焚祭、一粒万倍日、不成就日	十二	先負	ひらく	婁				6.09	16.40	26.41	14.41
9日	土	かえいぬ	五黄	一九番の日、太陽暦採用記念日、一粒万倍日	十三	佛滅	とつ	胃				6.10	16.39	27.38	14.41
10日	日	かのと	四緑	京都嵐山紅葉祭、京都空也堂開山忌、三隣亡	十四	大安	たつ	昂				6.11	16.38	28.35	14.41
11日	月	みづのえ	三碧	世界平和記念日、八せん始め	十五	赤口	のぞく	畢				6.12	16.38	29.32	14.41
12日	火	みづのと	二黒	望二二時三四分	十六	先勝	みつ	觜				6.13	16.37	30.29	14.41
13日	水	きのえとら	一白	秋の全国火災予防運動(9日~15日)	十七	友引	たいら	参				6.14	16.36	31.26	14.41
14日	木	きのと	九紫		十八	先負	さだん	井				6.15	16.35	32.23	14.41

全国的な秋晴れはこの月に多いが、別称「霜月」といふように、北のほうから寒冷前線が下がってきて、局地的には天候が悪化したことがあつた。

立冬がすぎると、駆け足で冬がやってくる。健康上や家事の上で冬を迎える準備に怠りがないようにチェックしよう。

【冠】十五日は「七五三」の宮詣りの日である。両親に連れられて、氏神様や名のある神社に参拝する日であるが、この「七五三」の慣行は歴史的にはそんなに古くはない。しかし女の子の七歳(帯結び)、男子五歳の祝(袴着け)は、それぞれ独立して格式高い家庭で行われていた。また、男児、女児の三歳は乳幼児期を無事に過ぎ、少年期へ成長するわが子に対する親心の現れであろう。本来、わが子の息災と加福を祈る素朴な祈願が、近時はやたら

日	曜日	干支	九星	行事	行	事	旧暦	六輝	中段	共宿	下段	目出入	月出入	満潮	干潮
15日	金	ひのえとら	八白	七五三、本州・四国・九州一般鳥獣狩猟解禁	十九	佛滅	とる	鬼				6.16	16.35	33.20	14.41
16日	土	ひのと	七赤	豊州稲荷秋季大祭、旧えびす講、旧誓文払い、不成就日	廿	大安	やぶる	柳				6.17	16.34	34.17	14.41
17日	日	つちのえとら	六白	将棋の日、奈良談山神社例祭、市川中山法華経寺御会式	廿一	赤口	あやぶ	星				6.18	16.33	35.14	14.41
18日	月	つちのと	五黄		廿二	先勝	なる	張				6.19	16.33	36.11	14.41
19日	火	かえとら	四緑	一茶忌、庚申	廿三	友引	おさん	翼				6.20	16.32	37.08	14.41
20日	水	かのと	三碧	下弦六時一分、二の酉、一粒万倍日	廿四	先負	ひらく	軫				6.21	16.32	38.05	14.41
21日	木	みづのえとら	二黒	京都東本願寺報恩講(28日迄)、近松忌、一粒万倍日	廿五	佛滅	とつ	角				6.22	16.31	39.02	14.41
22日	金	みづのと	一白	小雪二時五九分、八せん終り、三隣亡	廿六	大安	たつ	亢				6.23	16.31	40.00	14.41
23日	土	きのえとら	一白	労働感謝の日、熊本八代妙見祭、空閑稲荷秋穀稲穂祭、防府大滝宮徳坊祭、天しや、九星陽通始め、甲子	廿七	赤口	のぞく	氏				6.24	16.30	40.97	14.41
24日	日	きのと	二黒	不成就日	廿八	先勝	みつ	房				6.25	16.30	41.94	14.41
25日	月	ひのえとら	三碧	神道修成派教祖教霊大祭	廿九	友引	たいら	心				6.26	16.30	42.91	14.41
26日	火	ひのと	四緑		卅	先負	さだん	尾				6.27	16.29	43.88	14.41
27日	水	つちのえとら	五黄	朔○時○六分	朔	大安	とる	箕				6.28	16.29	44.85	14.41
28日	木	つちのと	六白	税関記念日、親鸞聖人忌、東京品川千休荒神大祭、己巳	二	赤口	やぶる	斗				6.29	16.29	45.82	14.41
29日	金	かえとら	七赤		三	先勝	あやぶ	牛				6.30	16.28	46.79	14.41
30日	土	かのと	八白		四	友引	なる	女				6.30	16.28	47.76	14.41

に華美におごり、お祭り事になり、虚栄の観が強いのはどういふものか。

【祭】三日は「文化の日」、戦前は四大節の一つで「明治節」といふ、明治天皇の誕生日である。その遺徳をたたえ文明・文化の記念日として各地でいろいろな文化事業の催しが行われる。戦後、憲法の改正があつて呼称は変わった。

二十三日は「勤労感謝の日」で、勤民が互いに感謝しあう日と制定されている。

この月の干支(えと)による「酉の市」といって、とも「酉の市」といって、驚(おおとり)明神の祭礼が行われる。開運の神としての一の酉、二の酉、三の酉、と盛大であるが、三の酉までである年は、活気がありすぎて火事が多いといふ伝えられている。

この月の九日は「太陽暦採用記念日」である。これまででしばしば旧暦といふ言葉がでてきたが、いま現在われわれが使っている何月何日という暦は、明治五年の十一月九日に採用された太陽暦以来である。